

# 平成28年度第1回光市総合教育会議 会議録

## 1 開催日時

平成28年8月24日（水）午後1時30分～午後2時50分

## 2 開催場所

光市教育委員会1階ホール

## 3 出席者

### (1) 構成員

光市長 市川 熙

光市教育委員会 教育委員長 永岡 榮之

〃 教育委員 河村 博明

〃 教育委員 寺崎 益朗

〃 教育委員 中西 かおり

〃 教育長 能美 龍文

### (2) 関係者

ア 総務部総務課

中村総務部長、小田総務部次長、清水総務法令係長

イ 市民部地域づくり推進課

縄田地域づくり推進課長

ウ 福祉保健部子ども家庭課

西村子ども家庭課長

エ 教育委員会事務局

蔵下教育部長、太田教育総務課長、和田学校教育課長、奥屋学校教育課主幹、弘文化・社会教育課長兼人権教育課長、村崎体育課長、穂山図書館長、呉橋学校給食センター所長、影土井教育総務課経理係長、村上教育開発研究所主任研究員、永光学校教育課教育企画担当

## 4 次 第

開 会

(1) 市長あいさつ

(2) 議 事

ア 第1次光市総合計画の成果（教育関連）について

イ 第2次光市総合計画策定に向けた市民意向調査結果について

ウ 協議・調整事項

（仮称）光市教育大綱の策定について

エ その他

閉 会

## 5 議事録（要旨）

開 会

(1) 市長あいさつ

本会議は、昨年度に引き続き3回目の開催となるが、本年度中の光市教育大綱の策定に向けた素案をお示しするので、本日の暑さに負けない熱い議論をお願いしたい。

私は、光市まち・ひと・しごと創生総合戦略において、教育行政を大きな柱の一つに掲げているが、ある国会議員さんからアフリカへの援助に関する件で、日本と中国の考え方の違いについて、こういう話を伺ったことがある。中国は「モノ」を現地へ持って行くのに対して、日本は「モノの作り方」を現地で教えるというものである。中国の古い格言に「ある人に魚を一匹与えれば、その人は一日生きられる。魚の獲り方を教えれば、その人は一生生きていける。」というものがあるが、この言葉は、まさに教育にも当てはまる教えの一つではないだろうか。私たち大人は、子どもたちに、教育を通じて「知識」、ここで言う「魚」を与えるだけではなく、「魚の獲り方」、いわゆる「知識の得方や活用方法」について、しっかりと教えていくことが必要と考える。

また、平成8年の文科省の中央教育審議会の答申「21世紀を展望した我が国の教育の在り方」に、「これからの子どもたちに必要なことは、いかに社会が変化しようと、自らが課題を見つけ、自ら学び、考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力である。」とあるように、私たちはまさに魚を与えるのではなく、魚の獲り方や活用の仕方を教育の中で教えていくことにより、子どもたちは真の「生きる力」を身に付けていくと信じている。

そうしたことも踏まえながら、皆さんと意見交換をしてみたい。どうぞよろしくお願い申し上げます。

## (2) 議 事

ア 第1次光市総合計画の成果（教育関連）について

イ 第2次光市総合計画策定に向けた市民意向調査結果について

アとイについては、関連があることから、一括して教育委員会事務局より説明。

### 【質疑・意見等】

(構成員)

基本目標Ⅱ「人を育み人が活躍するまち」の10年間の主な成果について、コミュニティ・スクールの小・中学校設置率が100%を達成したことは大きな成果の一つと思うが、どのように分析しているか。

(教育委員会事務局)

コミュニティ・スクール推進事業については、平成24年度から事業を開始して、平成26年度には全ての小・中学校に学校運営協議会が設置された。また、平成27年度にはコミュニティ・スクールコンダクターの活用を図りながら、事業水準の維持・向上に努めている。現行においては、継続事業でもあり、更なる事業の充実・拡大を図っているという理由から、資料に特には掲載していなかったが、全ての小・中学校がコミュニティ・スクールとして動き始めたことは大きな成果の一つとして十分に認識している。

(構成員)

学校施設については、災害時の避難場所としての活用など、安心・安全に使用できる施設として、平成26年度末をもって耐震化率100%を達成したことは非常に大きな成果である。新学校給食センターの建設についても、子どもたちに安全でおいしい給食が提供できるようになった。施設面については、この2点が特に大きな成果だと思う。

(構成員)

学校施設の耐震化については、安心・安全な学校生活の確保を最優先課題として取り組み、平成26年度末をもって耐震化率100%を達成することができた。

学校給食センターについても、先日、市のイベントで給食を試食した高校生からも、おいしくなったと高い評価をいただいたところである。

(構成員)

第2次光市総合計画策定に向けた市民意向調査結果について、子育てや教育に関する取組みにおける回答では、「確かな学力を育む教育内容・環境の充実」より「まち全体で支える子育て支援の充実」や「学校・家庭・地域がつながる『コミュニティ・スクール』の充実・強化」の数値が高い。市民の地域に対する思いや意識の高さを感じる。

**(構成員)**

近年、児童生徒の学力が向上しているという状況から、学力向上も一つの成果として受け止めてもよいと思うがどうか。

**(教育委員会事務局)**

毎年、全国学力・学習状況調査が実施され、光市の児童生徒の学力については、お示しのとおり、全国・県の平均値を上回る状況になっている。その理由としては、「チーム光」で授業改善を進めていることや、また、コミュニティ・スクールの取組みを通して子どもたちの自己肯定感や自己存在感が高まりつつあること。更には、学校生活の安定化により自己実現が図られてきていることなどが背景にあると思う。こうした児童生徒の学力向上も成果の一つとして十分に認識している。

**(構成員)**

教育施策における平成17年度から23年度、28年度における満足度と重要度の推移について、平成23年度と平成28年度の満足度を比較した場合、目標値を下回っている項目が見受けられるが、この結果をどのように分析しているか。

**(教育委員会事務局)**

多くの項目において、平成17年度と23年度では満足度が上昇してはいるものの、言われるとおり、平成23年度と28年度では、満足度が下がっている項目がある。一方、平成17年度と28年度では、どの項目も概ね上昇している。

それぞれの項目についての考察はお示しできていないが、数値が下がっている項目については、これまで以上に満足度が得られるよう、改善に向けた取組みの充実が必要であると考えている。

**(構成員)**

平成23年度と平成28年度での質問の方法や内容は同じか。

**(教育委員会事務局)**

同じ方法である。

**(構成員)**

年度間における数値の変化については、市民意識の変化や様々な要因があると思われるが、アンケート方法の工夫や細かな分析を行うなど、今後の事業改善に繋げてほしい。

**(構成員)**

子育てや教育に関する取組みに関するアンケート調査では、「学校・家庭・地域がつながる『コミュニティ・スクール』の充実・強化」について、35.9%の方々が重点的に取り組んでほしいという結果を受け、市民の皆様にもコミュニティ・スクールが広く認知されつつある結果ではないかと感じている。

## ウ 協議・調整事項

### (仮称) 光市教育大綱の策定について

(仮称) 光市教育大綱の策定について、教育長より説明。

## 【質疑・意見等】

### (構成員)

このたびの教育大綱においては、「光っ子」は教育目標で目指す市民像の総称ということであるが、本市の特色ある教育、特に学校教育をアピールするためにも、「教育ブランドひかり」をもっと前面に出せればよいと思う。また、豊かな心の育成は是非とも記載してほしい。

### (構成員)

教育大綱で示す目標を達成するための具体的な取組みについては、将来的な策定を目指している光市教育振興基本計画においてお示しできると考える。教育大綱は本市が目指すべき教育理念を示すもので、基本的には不変の理念で、今後とも引き継がれていくべきものと思う。

また、知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を身に付けるためにも、道徳についてはもう少し触れていくことができればよいと思う。

### (構成員)

「教育ブランドひかり」の取組みの一つの「地域とともにある次世代型コミュニティ・スクールの推進」において、「学校・家庭・地域が連携・協働し、社会総掛かりの教育の実現を図るため」とあるが、学校・家庭・地域に加えて、企業や各種団体とも積極的に連携、協力していくことが必要ではないか。

### (構成員)

「教育ブランドひかり」の創造の項目に「NEW光スタンダード」や「(仮称) 光スタンダードイングリッシュ」といった表記があるが、ここでいうスタンダードとは具体的にはどういうものか。

### (構成員)

考え方としては、日本語訳のとおり「標準」そのものである。本市では、授業を行う際に、必ず導入段階で学習課題を共有し、展開段階で学習活動の活性化を工夫し、終末段階で振り返りの充実を図ることにしている。学校の特色や教員一人ひとりの指導方法の工夫改善は生かしつつ、一定の授業標準、基本的な授業のかたちを設けることにより、光市全体としての教育水準を保っていこうとする取組みである。

(構成員)

教員それぞれの指導方法の特徴や特色は生かしつつ、子どもたちは基本型に沿った一定水準の教育が受けられるという解釈でよいか。

(構成員)

学級や子どもの状況によっては、全てを同じように進めることはできないこともあるが、授業を進めるうえでの基本型を大切にしながら学習活動を進めていこうとするものである。

(構成員)

教育大綱の中にも、そのような具体的な取組みを記載したほうが分かりやすく、より理解されるものと思う。

(構成員)

本市が目指す教育方針、教育スタイルを現場の教員がしっかりと理解し、校長も含め、学校全体として共有していくことが必要と思う。

(構成員)

「光っ子」という表現は、他の計画などにも出てくるものか。

(構成員)

教育大綱の関係図にある「光市まち・ひと・しごと創生総合戦略」でも使われているが、教育大綱で定める「光っ子」は、乳幼児を含めた子どもをはじめ、成人・高齢者など、光市に関係するすべての人を指している。その中でも、『「教育ブランドひかり」の創造』に記載のとおり、特に本市の特色ある学校教育にスポットを当て、子どもたちの教育を重点的にという考えがある。

(構成員)

「光っ子」や「教育ブランドひかり」といった表記については、あまり耳慣れない表現ではあるが、「ひかり」を広くアピールしたいという想いが伝わってくる。

(構成員)

言われるとおり、本市の光輝く市名でもある「ひかり」を、教育分野においても広く発信していきたい。

(構成員)

全体的な整理として、概要図における『「光っ子」のすがた』を目指すべき教育の理想像と定め、その実現に必要な項目としての基本目標があり、その中でも、特に本市が重点的に取り組むべき教育施策として「教育ブランドひかり」がある。更には、こうした施策をより具体的に実施すべき諸事業等については、今後策定を予定している教育振興基本計画に盛り込んでいくと理解してよいか。

**(構成員)**

言われるとおり、そうした方向で整理したいと考えている。

**(構成員)**

教育大綱は、今後5年間の本市教育の理念、理想像について定めるものであることから、夢と希望にあふれ未来へ輝く「光っ子」の育成に向け、目指すべき「光っ子のすがた」における3つ基本方針の順番や、その他の細かい表現等についても、本日の皆さんの意見等を踏まえ、改めて、検討、修正することで、よりわかりやすく、より理解しやすい教育大綱の策定に取り組んでいくことができればと思う。

**(構成員)**

個々の成長を目指すうえで大切なことは、知的、肉体的、情緒的、社会的、霊的といった5つ要素をいかに取り込み、鍛えていけるかだと思う。そうした要素を鍛えていくには、個々ではなく、社会全体で取り組み、育んでいくことが重要である。特に全体の中で人と人との繋がりや連携を重視することは、より日本的な育成手法と言える。こうしたことも踏まえながら、私たちが目指す教育の理想や理念を教育大綱としてまとめ、光市で教育を受ける子どもたち一人ひとりの成長を願いたい。

**(構成員)**

人と人との繋がりや連携といったご意見をいただいたが、教育においては非常に重要なことである。本市のコミュニティ・スクールに代表されるように、子どもたちは学校での学びによってのみ成長するのではなく、地域社会との繋がりや信頼の中で、多くの人に支えられながら、「生きる力」を学び、そして、成長していくものと思っている。

**エ その他**

その他の事項等なし。

午後2時50分終了